

# 風しんの感染予防について

風しん患者が全国的に増加してきており、岡山県内でも発生しています。近年では、子どもよりも大人の間で感染が広がっています。風しんは、飛沫感染により風しんウイルスに感染することによって、発熱や発疹、リンパ節の腫れなど風邪に似た症状が生じる病気です。感染力が強く、一人の患者から免疫のない人 5～7 人に感染（インフルエンザでは 1～2 人）する可能性があります。風しんにかかってもほとんどの方は軽症のうちに治りますが、まれに合併症を生じて入院が必要になったりするケースもあります。最も心配なのは、妊娠中の女性が感染すると、生まれてくる赤ちゃんに障害（先天性風しん症候群）が生じる可能性があることです。

〈先天性風しん症候群の主な症状〉

先天性の耳の病気（難聴）

先天性の眼の病気（白内障、網膜症、緑内障など）

先天性の心臓の病気（動脈管開存症など）

低出生体重（小さく生まれる）

血小板減少性紫斑病など

## 風しんを予防するには？

風しんは、一度自然に感染すると、生涯続く免疫が体に作られるため、その後風しんにかかることはないと言われています。この免疫は、風しんワクチンを接種することでも獲得できるため、予防のためには予防接種を受けることが有効です。風しんにかかったことがなく、ワクチンを 1 回も受けたことがない人は予防接種を検討しましょう。

予防接種を受ける必要があるかどうか分からない場合は、抗体検査を受け、検査の結果を確認し、抗体が十分でない場合は予防接種を検討してください。子どもの予防接種も大事ですので、子どもがいるご家庭では 1 歳児のときと就学前 1 年間の 2 回、予防接種を受けさせましょう。



## 特に注意が必要な方

- ・30代から50代の男性は、子どもの頃に定期接種の機会がなかったため、風しんの抗体価が低い傾向にありますので注意してください。
- ・妊娠を希望する女性は、妊娠する前に抗体検査や予防接種を検討することが重要です。妊娠中は予防接種を受けることができません。また、予防接種を受けてから約2か月は、妊娠を避けるようにしてください。
- ・妊娠中の女性が風しんに感染しないために、同居する家族も抗体検査を受けたり、予防接種を検討しましょう。



## かかったかな?というときは

風しんを疑う症状（発熱、発疹など）が出現した際は、医療機関に連絡の後、医師に相談しましょう。

## 風しんに関するリンク先

- ・大人の風しん予防接種費用助成について（津山市）  
<https://www.city.tsuyama.lg.jp/life/index2.php?id=6513>
- ・風しんの無料抗体検査について（岡山県）  
<http://www.pref.okayama.jp/page/380502.html>
- ・風しんについて（厚生労働省）  
[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekka-ku-kansenshou/rubella/](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekka-ku-kansenshou/rubella/)
- ・風しんについて（岡山県感染症情報センター）  
<http://www.pref.okayama.jp/page/286955.html>

お問い合わせ先：津山市健康増進課  
TEL：0868-32-2069